

|             |          |
|-------------|----------|
| 群<br>教<br>セ | G02 - 03 |
|             | 平14.207集 |

# 地域に生きる人々の願いや努力を 考える力を育てる社会科指導の工夫

— 「ストーリーカード」を使った意見交流活動を通して —

特別研修員 鶴谷 信彦 (吾妻町立坂上小学校)

## 《研究の概要》

本研究は、問題解決的な学習の過程にストーリーカードを用いた意見交流活動を取り入れ、地域の史跡に込められた人々の願いや努力を考える力をはぐくむことを目指したものである。つかむ過程では予想をもとにした意見交流から課題をつかみ、追究する過程では、調べによって根拠をもった考えについて意見交流活動を行うことで共通点に気づき、まとめる過程では、共通する願いや努力があることが考えられるように指導の工夫を行った。  
【キーワード：社会一小 地域学習 問題解決的な学習 カード 意見交流】

## I 主題設定の理由

子どもたちに身に付けたい「生きる力」とは、主体的に考え、判断し、よりよい生活を求めようとする力である。そこで、社会科では、問題解決的な学習を通して、地域の様々な課題を見つけ、自分とのかかわり方を考え、それらを社会生活の中に積極的に生かすことが大切であると考えられる。

本校の周辺には、文化財や史跡、伝統行事が多く残っている。子どもたちは、それらの名前は知っているが、場所や役割、まつわることについて、あまり知ろうとしていない。このことは、地域の文化財や史跡を学習として取り上げる機会が少なく興味が強く持てなかったことや、自分とのかかわりでそれらをとりえてこなかったことに原因があると考えられる。

今までの学習指導を振り返ると、子どもたちは、社会科への関心は高く、社会的事象に興味を持ち、意欲を持って調べようとする。しかし、自分の考えを意見交流活動でうまく示せない場面や事象にかかわる人々の願いや工夫・努力について考えが及ばない場面が多く見られた。このことは、意見交流のねらいを明確にしなかったことや自分とのかかわりで事象をとらえさせていなかったこと、さらに、自分の考えを整理する活動の不足などが考えられる。

本研究では、社会科学学習を進める上で、「段階を追うごとに考え方に広がりを持てるような学習過程の工夫」を通して、「自分の考えを持ち、様々な考えやその根拠にふれ、考える視点を増やし、地域の社会的事象に対する人々の願いや努力について考える力を育てる」を課題としてとらえた。

まず、つかむ過程では、古くから残る地域の史跡（以下：古いもの）がつくられた理由を考える場を設け、意見を交流する場を通して追究しようとする課題を明確につかませたい。次に、追究する過程では、自分の考え方を確かめるために、友達の考えにふれる意見交流を行い、単一グループから複数へと広げることで様々な考え方を知り、共通した願いがあることをとらえさせたい。最後に、まとめる過程では、意見交流によって、そこに貫いている願いについて考える場を設け、新たな課題に対する意見交流活動を行うことで共通した努力があることについてとらえさせたい。

このことにより、子どもたちは、自分の考えをより多くの視点からとらえ、人々の願いや努力について考える力が身に付くと考え、本主題を設定した。

## II 研究のねらい

問題解決的な学習の過程に、「ストーリーカード」を用いた意見交流を行うことが、地域に生きる人々の願いや努力を考える力を育てるために有効であることを実践を通して明らかにする。

## III 研究の見通し

問題解決的な学習過程に、「ストーリーカード」を用いた意見交流活動を行えば、地域に生きる人々の願いや努力を考える力を育てることができるであろう。

- 1 つかむ過程において、生活経験から社会的事象について考えたことを「ストーリーカードⅠ」に記入し、自分なりの考えやその根拠についての意見交流を行えば、追究する課題を明確につかむことができるであろう。
- 2 追究する過程において、調べた事実から考えたことを「ストーリーカードⅡ」に記入し、考えやその根拠を明確にする意見交流活動を行えば、社会的事象に対する考えの共通点を見つけ、考え方に広がりを持つことができるであろう。
- 3 まとめる過程において、未来まで社会的事象を残すために自分たちにもできることについての意見交流活動を行い、「ストーリーカードⅢ」に考えをまとめていけば、それぞれの事象を貫く地域に生きる人々の願いや努力について考えることができるであろう。

## IV 研究の内容と方法

### 1 研究の内容

#### (1) 地域に生きる人々の願いや努力を考える力とは

子どもたちは、地域の史跡について、それらを造った先人たちに思いを寄せるはずである。先人たちが「どのように造ったか」や「なぜ造ったのか」などを、当時と現在の生活の相違点や類似点を明らかにしながら、先人と自分とを重ね合わせて考える。そして、地域の史跡それぞれに「健康、安全、豊かさへの願い」が込められていることに気づく。そして、造られた時期から、その年月の長さを知り、「自分たちの手で守る方法」を考えることで、「造り、守り続ける努力」が長い年月積み重ねられてきたことに気づく。そして、その「願いや努力」が現在でも生きていることがわかる。そして、将来にわたり「願いや努力」を受け継ごうと自分でこれからできることを考えることで、地域に対する誇りを持つことができると考えられる。

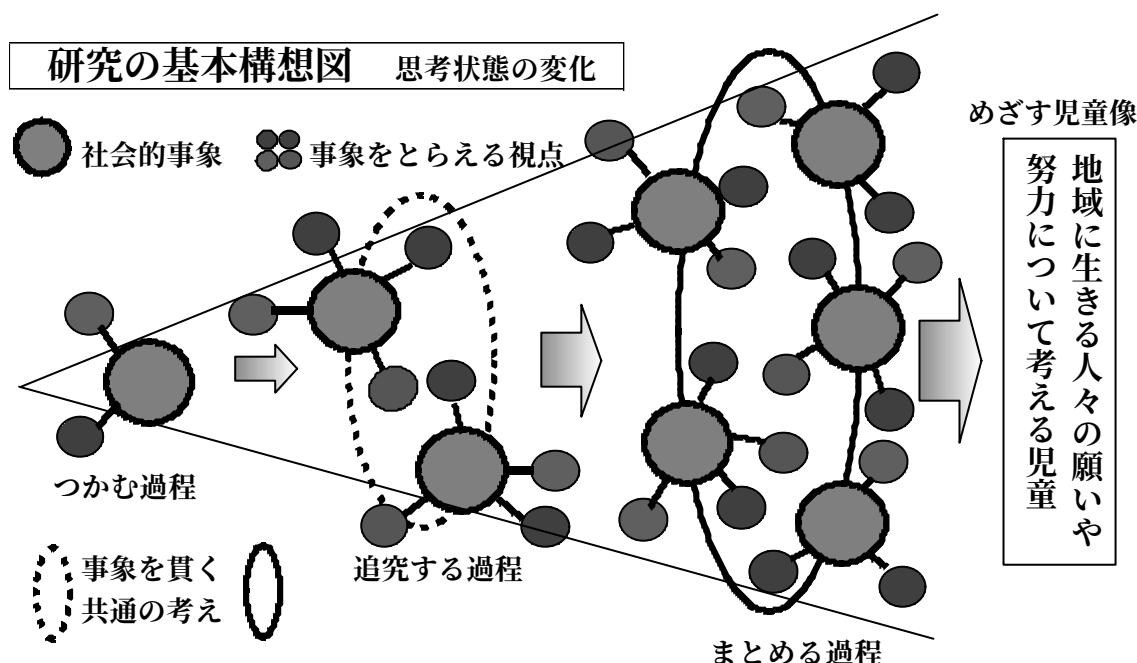
#### (2) 「ストーリーカード」を使った意見交流活動とは

「ストーリーカード」は、考えを整理し、社会的事象に対する課題について解決を図り、考えとその根拠を記入し、考えの経緯を図示し、思考に論理性を持たせるためのワークシートやカードである（資料編1(2)参照）。つかむ過程では、課題に対する仮説が立ち、調べる課題を明確にするために、事象に対する予想、考えの根拠、意見交流後の疑問点などを記入できるようストーリーカードⅠを用いる。子どもたちは、生活経験の中から予想を立て、根拠となりそうなことを頼りに考え、これをカードに記入する。この時点で、子どもたちの思考段階が単なる予想から、自分なりの根拠を持った考えに発展する。その予想についての意見交流活動を同一課題グループによって行い、自分にはなかった違った視点からの考えや根拠にふれ、社会的

事象に対する疑問が明確になる。

追究する過程では、調べた事実から明確な根拠を持たせて、考えたことが論理的に説明できるように、一つの考えに1枚のカードを用意し、表側に考えを、裏側にその根拠を記入し、それらが論理的に因果関係が明確につながるように作成する（ストーリーカードⅡ）。このカードを、紙芝居のように1枚1枚説明をしながら発表する意見交流活動を、同一事象グループ、複数の異事象グループへと徐々に交流範囲を広げて、それぞれの考えの共通点を見いだす。この活動によって、自他の相違点がはっきりしたり、他のよさを取り入れたりするなど、子どもたちは、より明確な根拠をもった考えをもつことができる。そして、複数の事象それぞれに共通することに気づくことができる。

まとめる過程では、新たな課題に対する考えとその根拠を明確に持たせ、それぞれの事象に共通したことをつかませるために、新たな課題に対する解決方法についての意見交流活動を学級全体で行い、出された意見や調べてきた事実から全ての事象に共通した考えをつかみ、自分の考えを因果関係が明確になるように線でつなげて記入するストーリーカードⅢを用いる。そのことにより、より明確で論理的な考えをもつことができると考える。



## 2 研究の方法

研究の見通しに基づき、以下の計画で授業実践を行い検証する。

### (1) 授業実践計画と検証計画

| 対 象  | 吾妻町立坂上小学校4年（27名）                                                                                   | 単元名  | 郷土に伝わる願い                                             |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------------------------------------------------------|
| 実施期間 | 平成14年10月14日～11月20日                                                                                 | 12時間 |                                                      |
| 検証項目 | 検 証 の 視 点                                                                                          |      | 検証の方法                                                |
| 見通し1 | 地域に残る「古いもの」がつくられた理由を考え、ストーリーカードⅠに記入し、それをもとに意見を出し合うことは、新たな考え方にふれ、自分自身の考えがゆさぶられ、課題を明確につかむために有効であったか。 |      | 書かれた初発の理由から、意見交流を経て、どのように仮説を立てたかを個別指導やカードを通して明らかにする。 |

|       |                                                                                                                                  |                                                                        |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|
| 見通し 2 | 調べた事実を基に「古いものがつくられた理由」についての考えをストーリーカードⅡに記入し、その根拠を明確にした意見をグループ内で述べ合うことで、追究する課題、友だちの考えそれぞれに共通することについて考え、それを自分の考えに生かすことに有効であったか。    | 調べた事実や考えたことから、意見交流を経て、共通点を考え、どのように考えが変わったか、カードや発言を通して明らかにする。           |
| 見通し 3 | 「100 年後に残すために」自分たちでできることについて意見交流し、自分の考えをストーリーカードⅢに記入する活動を行えば、古いものそれぞれに願いが共通していることに気づき、その願いを達成するために長い年月の様々な努力が必要なことをつかむのに有効であったか。 | 調べた事実、考えたことから、意見交流を経て、人々の願いや努力についてどのように変わったか、カードや学習感想、発言の様子などから明らかにする。 |

## (2) 抽出児童について

|     |                                                                                                    |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| A 男 | 社会的事象の特色についてねばり強く調べ、理解できるが、根拠となることを示すことや他の意見を取り入れることを苦手とする。自分の考えを論理的につなげるように記入させることで、根拠を明確につかませたい。 |
| B 子 | 事象個々の役割や意味は、理解できるが、事象相互のつながりやそれらを表現することを苦手とする。それぞれの事象のかかわり方の根拠を明確にしなが、わかりやすく表現させたい。                |

## V 研究の展開

### 1. 単元の考察と目標

|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                          |
|-----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 単<br>元<br>の<br>考<br>察 | 本単元は、学習指導要領の第3学年及び第4学年の内容(5)のイ「地域にのこる文化財や年中行事」およびウ「地域の発展に尽くした先人の具体的事例」を受けて設定したものである。先人によって造られた「石灯籠」や「太鼓橋」、「霜田用水」などについて、地域の人に話を聞くことや実際にふれてみたり、当時の生活の様子などを調べる活動を行う。これらのことから造られた理由や今でも残る理由を考え、先人たちが生活を向上させるためにどのような願いや努力をしてきたのかについて考えることができるようになり、地域を守り育てようとする態度を育てるために十分な価値をもった単元である。 |                                                          |
| 目<br>標                | 先人がこの地域での生活をよりよくするために願いを抱き、工夫や努力をしてきたことやそれらが時を経て今にも通じていることを理解し、そうした歴史の上に成り立つ自分たちの地域に対する誇りと愛情を持つ。                                                                                                                                                                                    |                                                          |
| 評<br>価<br>規<br>準      | おおむね満足できる                                                                                                                                                                                                                                                                           | 十分満足できる                                                  |
|                       | 【社会的事象への関心・意欲・態度】<br>地域に残る史跡や先人の働きに関心を持ち、見学や調査活動を通して調べようとする。                                                                                                                                                                                                                        | 史跡にまつわる由来や伝承などに着目し問題意識を持ち意欲的に調べようとしている。                  |
|                       | 【社会的な思考・判断】<br>史跡について学習課題を見だし、追究・解決することで、史跡に託された人々の願いや努力を具体的に考えようとする。                                                                                                                                                                                                               | 史跡に託された人々の願いや努力がそれぞれの事象や現在の社会生活にも関連することが考えることができる。       |
|                       | 【観察資料活用<br>の技能・表現】<br>地域に残る史跡について、めあてをもって資料を調べるとともに、その結果や考えをまとめ表現する。                                                                                                                                                                                                                | 史跡にかかわる事実を見つけ、具体的に読みとり、問題解決に結びつけながら、適切に記録し、わかりやすく表現できる。  |
|                       | 【社会的事象についての知識・理解】<br>先人たちの築いた史跡や人々の願いや努力がわかり、史跡が今でも残っている理由を理解している。                                                                                                                                                                                                                  | 史跡に共通する願いや努力が当時の人びとの生活に強く結びついていたことやこれからも残すことの大切さを理解している。 |

## 2 学習指導計画および評価の計画（全12時間予定）

| 学習過程       | 主な学習活動・内容                                                                                                                  | 形態   | 評価方法等                                                                                                                                 |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学習の問題をつかむ  | 「坂上の古いものを探そう」                                                                                                              |      |                                                                                                                                       |
|            | 共通課題<br>坂上にのこる古いもののひみつを探ろう                                                                                                 |      |                                                                                                                                       |
|            | ○吾妻町にはどんな「古いもの」があるのかについて発表し、坂上地区にはどんなものがあるのか調べようとする意欲を高める。<br>（1/12）                                                       | 個別   | ・地域に残る「古いもの」にどのようなものがあるのかワークシートの内容の分析を通して評価する。                                                                                        |
|            | 「古いものはどうしてつくられた？」<br>○坂上にのこる「古いもの」について知っていることをワークシートに記入し、自分の知らなかったこと、よくわからなかったことなどをカードにまとめる。（2/12）                         | 個別   | ・課題発見に向けて、知っていることと知らないことを整理できているかや意欲を持って取り組んでいるかを、発言やワークシート記述の内容の分析を通して評価する。                                                          |
|            | 見通し1<br>○古いものそれぞれがつくられた理由について自分の考えをストーリーカードⅠに記入し、そのことについて意見を出しあい、自分なりの仮説を立て、調べようとする課題をつかむ。<br>（3/12）                       | グループ | ・課題に対する仮説をどのように立てたのかや児童がどのような考えを持っているかを、カード記述の内容や発言の分析を通して評価する。                                                                       |
| 学習の問題を追究する | 「古いものにくわしくなろう」<br>○「古いものがつくられた理由」をさぐる。<br>それぞれの課題に対する調べる内容、方法について考え、調査の見通しを立てる。（4/12）                                      | 個別   | ・課題の解決に向けて、何をどのような方法で調べるのかという見通しを持っているかどうかを、発言やワークシート記述の内容の分析を通して評価する。                                                                |
|            | ○計画に沿って調べる。（5・6/12）                                                                                                        | 個別   | ・課題の解決に向けて意欲的に調査、見学などを行っているかを、児童の行動観察やワークシート記述の内容の分析を通して評価する。                                                                         |
|            | ○調査したことから理由を考える。<br>「つくられた理由」についての考えとその根拠についてわかるように、ワークシートやストーリーカードⅡに記入し、それを基に資料をつくる。（7・8/12）                              | 個別   | ・調査・見学をして課題の解決に必要な事実を見つけ、ワークシートに記録しているかどうかを、児童の行動観察やカード記述の内容の分析を通して評価する。<br>・調査したことを根拠に「つくられた理由」についての考えが持てたかどうかを、カード記述の内容の分析を通して評価する。 |
|            | 見通し2 「古いものがどうしてつくられた？」<br>○どうしてつくられたかの理由をはっきりさせて、ストーリーカードⅡによる意見交流をはかり、当時の人々の願いがあることに気づく。（9/12）                             | グループ | ・学習の課題をその子なりにどのように解決したかや自分の意見との相違点や、類似点に気づき、史跡に込められた人々の願いについて考えることができたかを、発言内容の分析を通して評価する。                                             |
|            | ○他の課題グループを交えてストーリーカードⅡによる意見交流を行い、それぞれの事象に共通した願いがあることに気づく。<br>（10/12）                                                       | グループ | ・それぞれの調査した史跡に共通した願いについて考えることができたかや分かったかどうかを、カード記述の内容の分析を通して評価する。                                                                      |
| 学習の問題を解決する | 「古いものをこれからも残すには」<br>○それぞれのストーリーカードをもとに、課題の全く違うもの同士で編成したグループで意見交流し全体で共通した願い、努力について気づく。（11/12）                               | 個別   | ・学習の課題をその子なりにどのように解決したか、また「古いもの」を支える人々の努力についてどのように考えているかを、発言やカード記述の内容の分析を通して評価する。                                                     |
|            | 見通し3<br>○古いものがなぜ残っているのか学級全体で意見交流し、これから100年後まで古いものを残して行くにはどうしたらよいかについて、ストーリーカードⅢに記入し、共通した願い、努力について気づき、自分にできることをとらえる。（12/12） | 一斉   | ・史跡を守る人々の願いや努力が分かり、それらを残すためにどのように考えているのかを、発言やカード記述の内容の分析を通して評価する。                                                                     |

※具体的評価規準については資料編1参照

## VI 研究の結果と考察

1 つかむ過程において、生活経験から社会的事象について考えたことを「ストーリーカードⅠ」に記入し、自分なりの考えやその根拠についての意見交流を行えば、追究する課題を明確につかむために有効であったか

写真入りのワークシートから追究してみたい古いものを選び、古いものがどうして造られたかについて考える場を設定した。古いものについて知っていることが少なく、生活経験の中から、聞いたことや見たことを頼りにしながら、自分なりの考えをカードに記入し、同一課題グループ内で意見交流を行った。

A男は、畔宇治神社の石灯籠（1826年大富豪・加部安左右衛門が神社に郷土繁栄、五穀豊穡を祈願し、奉納するため信州伊奈の石工をわざわざ呼び寄せ造らせたもの）が造られた理由に

について「加部安左右衛門が造らせた」とつぶやいていたが、そのかわりがうまく見いだせず「明かりをとすため」という記入にとどまった。それぞれの考えについての意見交流後、A男の考えにはなかった「神様をまつるため」の意見に影響を受け、「本当に神様をまつるためにやったのか」と神社とのかかわりにせまる疑問を持つことができた。

B子は、大戸の関所（旧中山道豊秋宿から分岐し長野に至る旧信州街道大戸宿に江戸時代前期に設置され、加部安左右衛門の身内が管理していた。また、国定忠治が関所破りを試みたことで有名）が設置された理由として、「国定忠治が関所破りをして処刑され、こわいんだということを知ってもらうために作られた。」と考えた。意見交流において、「きっぷ」がないと通れないという意見に着目し、「関所の本当の役目」や「いつのことなのか」について探るための足がかりとなる視点を持つことができた（資料1）。

資料1 課題をつかめたB子 一部抜粋

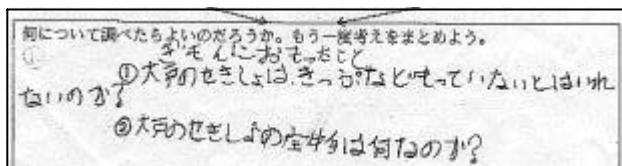


表1 各グループごとに調べた事象が造られた理由について意見交流前後の変容

| 事象   | 意見交流前の意見と割合               | 意見交流後の意見と割合                  |
|------|---------------------------|------------------------------|
| 仙人窟  | ・隠れるため穴を掘られた。100%         | ・安置されている石仏に何か関係がある。100%      |
| 霜田用水 | ・自然を増やす。67%<br>・水をとる。33%  | ・田に水が不足。67%<br>・生活に必要。67%    |
| 石宮   | ・神様のため。67%<br>・天狗のすみか。33% | ・天狗のすみかを与える。100%             |
| 太鼓橋  | ・神社との境目。50%<br>・幸せにする。50% | ・神様に対するお礼や感謝。100%            |
| 石灯籠  | ・明るくする。67%<br>・観光客が来る。33% | ・神様に社に導く。50%<br>・参拝者の明かり。50% |
| 関所跡  | ・悪人を捕える。80%<br>・人の墓。60%   | ・悪人を通さない関所の役目がある。100%        |

授業後、ワークシートを分析すると、自分の考えがグループでの意見交流を経ることで、新しい視点を取り入れた考えに変化し、古いものが造られた本当の理由により近づいているのがわかる。例えば、霜田用水のグループでは、「自然を増やす」を多くあげていたが、「水をとる」という考えから、交流後、「田に水が不足」していたことや「生活に必要」であったという考えに発展していった（表1）。

以上のことから、「ストーリーカードⅠ」に自分なりの考えを書き、同一課題グループ内で意見交流を行うことは、自分の考えになかった視点に気づき、それを自分の考えの中に生かし発展させていこうとする思考活動をうながすために有効である。さらに、それらの考えが根拠のない曖昧なものであるため、その考えを確かめようと課題を明確にもつことができた。それによって、事象について、詳しく調べようと意欲をもって、見学やインタビューの計画を立て、必要な資料について、自分で見つけ調べる姿が25人見られた。全員で見学できないため、ビデオで取材した映像から事実をつかめた様子が見られた。

2 追究する過程において、調べた事実から考えたことを「ストーリーカードⅡ」に記入し、考えやその根拠を明確にする意見交流活動を行えば、社会的事象に対する考えの共通点を 見つけ、考え方に広がりを持つために有効であったか

調べた事実をもとに再考した「つくられた理由」を論理的に段階をふんだ説明ができるようカードに記入し、一つの物語になるよう作成した。このカードを、紙芝居のように1枚1枚つなげて考えを発表する意見交流活動を、同一事象グループ、二つの異事象グループへと徐々に交流範囲を広げて、それぞれの考えの共通点を見いだす活動を行った。

A男は、「いつ・だれが作ったか」や「灯籠の役目」について調べ、それをもとに考えた。「1826年に加部安左右衛門が信州伊奈の石工に造らせた」ことを、VTRに写っていた灯籠に彫ってある銘や文献資料から調べた。つくられた理由について考える際に、加部安左右衛門とのかかわりと当時の加部家の繁栄ぶりとそれを支えていたものは何かを調べるよう助言をした。する

と「信州伊奈」を地図で確認し、わざわざ遠い場所から呼び寄せたこと、その理由として、伊奈の石工の腕前は、非常に高かったことなどを調べた。そして、加部家の繁栄は村の人々のおかげであり、その思いを最高の石灯籠を寄付することで表せると考え、「大戸村に感<sup>おおど</sup>しゃするためしよくにんにつくらせた」と記入することができた（資料2）。

それぞれのストーリーを発表し合う意見交流活動で、A男は、「石灯籠には何かの思いが込められている」という視点を持ち、「困ったことをなくす」「生活が楽になってもらいたい」「（神社が）ありがたいから」などの友達の発表から、村人が神様へ願う「いのり」が共通して込められていることに気づいた。また、A男の考えは、他の子になかった考えであったため、加部安左右衛門がかかわっていることや、石工についてなど考え方に影響を与えた。

B子が課題を調べる際、「きっぷや関所の役目」「大戸を通る街道」などを調べるよう言葉をかけた。すると、女性は自由に旅ができなかったこと、関所は犯罪者を取り締まるため「手形」が無ければ通行できなかったこと、大戸は二つの街道が交差する重要な場所であったことが分かった。意見交流活動で、「国定忠治は犯罪者だった」

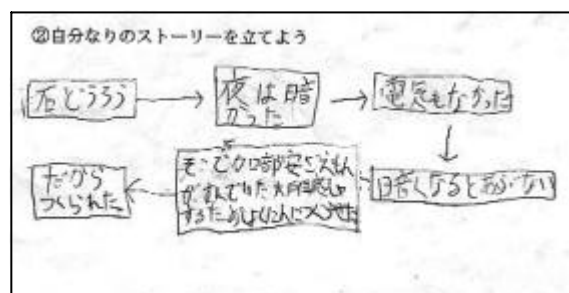
「いろいろな所から人がやってくる。だから、悪い人もたくさん来る。」という友達の意見から、大戸の関所は「自由に通れないことは、悪い人も勝手に行けない。だから、人びとは安心してきて、平和に生活できる。」と自分の考えを発展させ、グループ内の考えに共通している点を見つけることができた。また、別のグループとの意見交流において、「（生活が）らくになってもらいたい、平和になってほしい、ねがい」が込められていると共通点をとらえることができた（資料3）。

学級全体では、古いものに共通することとして、「平和な」「安全な」暮らしへの「祈り」や「願い」があるととらえることができた。このことから、自分なりの考えから、調べたことを根拠としてストーリーを組み立て、意見交流することは、それぞれの考えから共通点を見つけ、自分の考えを発展させて願いや努力をとらえるのに有効であったと考えられる（表2）。

3 まとめる過程において、未来まで社会的事象を残すために自分たちにもできることについて、意見交流活動を行い、「ストーリーカードⅢ」に考えをまとめていけば、それぞれの事象を貫く地域に生きる人々の願いや努力について考えるために有効であったか

「古いものがなぜ残っているのか」について学級全体での意見交流をおこなう場を設定し、地域ごとにさまざまな行事があり、そこに込められた人々の願いや努力していることに気づく。

資料2 ストーリー原案を立てたA男



資料3 交流後、共通点をとらえたB子

こからじんじやと大戸関所のきょうつうしているところはらくになってほしい平和になってほしい生活、安全平和のいみが入っているねがい

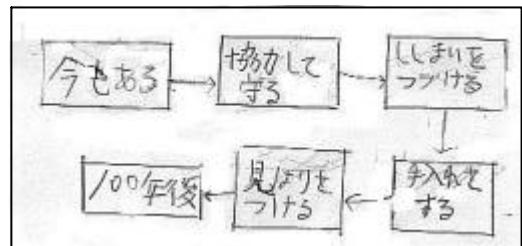
表2 各グループで出された共通の願い

| 事象   | 明らかにした共通点     | 数字は割合                    |
|------|---------------|--------------------------|
| 仙人窟  | いのりがある        | 100% 健康な暮らし60% 守り神40%    |
| 霜田用水 | 田の稲が育つ        | 100% 米が増える100%           |
| 石宮   | 生活が楽になってもらいたい | 100%                     |
| 太鼓橋  | 病気が治る         | 100% ありがたい100%           |
| 石灯籠  | 豊作への祈り        | 100% 大戸村への感謝83% 大切なもの50% |
| 関所跡  | 安全・平和な生活への願い  | 100% 気持ち50% 祈り50%        |
| 全て   | 願い            | 45% 祈り 25% 気持ち 21%       |

そして昔から続く「願い」や「努力」に重なることが分かり、「100年後にも残すにはどうしたらよいか」についての考えをストーリーカードⅢに記入する活動を設定した。

A男は、古いものすべてに共通することとして「願い」「気持ち」「いのり」をあげた。そして、「古いものがなぜ残っているのか」について、学級全体で意見交流をおこなったところ、A男は獅子舞を例にあげ、百年近く踊り続けられてきたことから、「守ろうとする人びとがいる」と発言した。意見交流後、「協力」「守る」「ししまい」「手入れ」「見はり」の記入が見られた（資料4）。このことは、

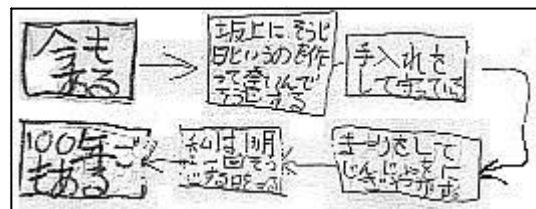
資料4 古いものの価値に気づいたA男



霜田用水を調べた子どもの「こわれるとみんなで協力して修理してきた」や仙人窟を調べた子どもの「地域の人びとが草刈りをして守っていること」の発言から影響を受け、自分の考えに取り入れたものと思われ、これらの記入から、A男は石灯籠はかけがいのない大切な遺産であると気づいたと考えられる。

B子は、月ごとの地区の清掃活動に着目し、「仙人窟では草刈りがされている」という発言や古賀良神社では「石段がこけで覆われ、字が消えていた」という発言から考えついた。そして神社のお祭りにはたくさんの人が訪れ、そのたびに手入れをされたり、みんなに知ってもらうようになり守られていくと考えた。B子は、自分の生活経験や友だちの考え、調べたことから考えたことなどをつなげて、自分の考えとしてまとめられる姿が見られるようになった（資料5）。

資料5 自分でできることを書いたB子



各グループや個人で「願い」についての具体的な言葉や気持ちについて、共通点を見つけることでとらえることができたと考えられる。「努力」については、「協力」「守る」という言葉ではあったが、人びとの協力なしには、今でも残っていないし、これからは残っていかないことをとらえることができた。そして、獅子舞を踊っている子たちから、「『獅子舞保存会』に絶対に入って、教えていく。」という学習感想を持つ子どもが出てきた。

## VII 研究のまとめと今後の課題

- ストーリーカードを用いた意見交流活動をおこなうことは、自分以外の考えにふれる機会が増え、事象相互のつながりを考えるために必要なさまざまな視点を持つことができた。そして、日常あまり深く考えることの無かった地域の文化財について、さまざまな視点からとらえ、文化財そのものに地域の人びとの願いや努力があることに気づくことができた。
- 漠然とした自分の考えでもストーリーカードに表し、考えの根拠を明確に持つことで、何を課題として追究していくかがしっかりと押さえられ、一人一人意欲をもって調べることができた。そして、自分の考えをストーリーカードに記入することで、調べたことを整理したり、それを根拠に論理性のある考えが一人一人持てることができた。
- 子どもたちの学びの姿として、地域の文化財についての資料や見学中心の学習だけでなく、学校外講師を招き、直接、願いや努力についてお話が聞ける機会など工夫する必要がある。

## 〈参考文献〉

北 俊夫・安野 功 編著『小学校社会科基礎・基本と学習指導の実際』東洋館出版（2002）



